

ドイツ学術情報 (2011年10月~12月)

< 目次 >

- 1 ピックアップニュース …p1
 - ①新規大学入学者数が初めて 50 万人を超える
 - ②バチェラー課程修了者の就職について
 - ③オンライン投票による DFG の専門審査委員選挙が実施される

- 2 その他のニュース …p7
 - ①ヴァイマル大学が「国際的な大学」賞を受賞
 - ②「バチェラープラス」で留学をより容易に
 - ③11名の傑出した研究者がライプニッツ賞を受賞
 - ④「大学教育の質改善に関する協定」第2期
 - ⑤数字で振り返る 2011 年

1 ピックアップニュース

①新規大学入学者数が初めて 50 万人を超える

2011年にドイツでは、徴兵制の廃止(18歳以上の男性は兵役を果たす必要があり、これまでは男性の多くはギムナジウム(Gymnasium)を卒業して大学入学資格を得ても、すぐに大学に入学せずに兵役に従事していた)と、いくつかの州での大学入学資格を得るための標準的な就学年数の短縮(小学校(Grundschule)からギムナジウムまでの就学年数が13年から12年に短縮)があり、2011年は大学新規入学者数が大幅に増加することが見込まれていた。実際に、2011/2012年度の冬学期の大学新規入学者数は過去最高の51万5,800人となり、これは前年同期の44万5,000人と比較すると16%の増加である。連邦教育研究省(BMBF)は学生数の増加に備え、「大学協定」により予算を用意するなどして対応している。一方メディアでは、増加する学生に対して講義室も足りずに、講義室に入りきれない学生が廊下や階段にあふれている様子もしばしば報道されている。この学生数の増加に関する記事を以下に紹介する(いずれの記事も全文和訳ではなく、当センターにて要約したものである)。

●大学協定が示す効果(17 Oct 2011)

大学からの報告によると、ドイツの大学での新規入学者数が明らかに増加し続けている。とりわけ西側のいくつかの大学において顕著である。ドイツ大学長会議(HRK)は、ドイツ全体において前年度比で平均15%増という結果を示した。そのとおりであれば、今年度は50万人以上の若者が大学での学修を始めたことになる。前年度(2010/2011年度)冬学期は、新規入学者数は44万5,000人であった。連

邦教育研究省(BMBF)のアネット・シャヴァーン大臣は「この数字は、専門職業人不足に対してと、我が国の将来性にとって、励みになる兆しである」と述べた。

学生数の増加に対応するための学籍枠の増加を根本的に可能にしたのは、連邦政府と州政府により合意された「大学協定」である。連邦は州に対して、学籍枠拡充のために2011年度は6億ユーロを用意し、2012年度にはさらに11億ユーロを追加する。2015年度までの「大学協定」第2段階において、33万5,000人分の追加学籍枠が用意されなければならない。そのために、連邦政府だけで50億ユーロ弱を用意することになっている。

大学は増加する需要に対して、例えば、教育や学生相談のための教職員の追加、教室の追加借り上げ、図書館の開館時間の延長などといった対応をしている。

BMBF HP(<http://www.bmbf.de/press/3163.php>)

●シャヴァーン大臣が大学新規入学者の増加を「非常に良い兆し」と(23 Nov 2011)

連邦統計局は、2011/2012年冬学期の大学新規入学者数を51万5,800人と確定した。昨年の冬学期は44万5,000人であり、16%増加したことになる。

シャヴァーン大臣は、いわゆるMINT分野(Mathematik(数学)、Informatik(情報科学)、Naturwissenschaften(自然科学)、Technik(工学))における新規入学者の増加について、専門職業人不足解消の観点からも、特に喜ばしいことと捉えている。連邦統計局によると、電気工学では22%、機械工学/プロセス工学では21%、情報科学では18%、建築工学では23%、それぞれ新規入学者数が増加している。

BMBF HP(<http://www.bmbf.de/press/3181.php>)

●大学進学ブーム: 講義室、教員不足が深刻化 (28 Nov 2011)

大学の状況がここ数年間に今までよりさらに緊迫した状態になるだろうことは誰もが予測していたことだった。出生者数の多い学年のギムナジウム卒業生が大学に殺到する。それに加え、旧西ドイツのいくつかの州では、ギムナジウムの就学年数が1年短縮され、2つの学年が同時に卒業し大学入学資格を取得する年に該当する。さらに、予期せず兵役が廃止された。2011/2012年度冬学期の新規大学入学者数は、大学、専門大学合わせて、51万5,800人(16%増)となり、これはこれまでの全ての予側を上回るものだった。

ここ数年多くの大学入学資格取得者から、中退率の高さのために恐れられて不人気であった情報学、機械工学、電子工学のような技術関係の課程への入学者数が最高23%増と記録的に増加した。経済界は、専門職業人を切実に必要としている。「すでに今日、労働市場は年間で4万人の大卒者を必要としている。その数は実際の大卒者数を上回っている。」とドイツ大学長会議(HRK)のマルグレート・ヴィンターマンテル会長は労働市場分析を引き合いに出して述べた。試算によると、経済成長率が年間1.5%の場合、ドイツでは2020年までに120万人以上の大卒者が不足するという。「私たちは、若い世代に専門教育を施すという社会の期待に応えなければならない」とヴィンターマンテル会長は語った。

しかし、多くの大学で事態は非常に緊迫している。大学の講義室が足りず、教員も不足しており、ゼミで学生によりよい指導ができずにいる。修士課程の定員枠が長期的に不足し、大学での専門教育の継続が困難になっている。その上、多くの大学では、建物を今すぐにでも建て直さなければならないような状況にある。

大学は数年前から資金不足を嘆いている。ドイツでは大学への公的資金は国内総生産の1.1%に過ぎず、他の経済協力開発機構(OECD)加盟国の平均1.5%より明らかに低い。大学に対する基礎資金は、HRKの計算によると、特に教育に投入される額に関しては1995年から2008年の間にわずか6%しか上昇しなかった。これは物価上昇率より低い値である。それに対して、上昇したのは研究のために調達された外部資金の額であるが、それは通常あらかじめ用途が定められており、教育のために使われることはほとんどない。

しかし、州政府は新たに借金しないよう歯止めをかけられており、今後数年は大学への公的資金を拡大するよりはむしろ節約するのではないかと、学長たちは危惧している。それに加え、2006年の連邦制度改革により教育分野における提携禁止が導入され、それにより連邦政府と州政府との提携が難しくなっている。

大学進学ブームの別の要因は、大学教育を受けたいと思う傾向がドイツの若者の間で強くなっていることである。大学情報システム社(HIS)の定期的なアンケートによると、2008年から2010年の間に大学入学資格取得者の中で、大学への進学志向が5%増加し、77%になった。それにもかかわらず、今でもまだ5人に1人の割合で、大学入学資格取得者が大学進学をあきらめている。

工業国30ヶ国の国際比較では、ドイツは最近の大学進学ブームにもかかわらず、大学への進学志向が非常に低い国だと見なされている。ドイツより低いのは、トルコ、ベルギー、メキシコ、ルクセンブルクだけである。このことは大卒者比率の国際比較においても明らかである。ドイツでは同年齢人口比の大卒者の比率がようやく25%まで上昇したが、他の工業国の平均はすでに38%に達している。

dpa-Dossier Bildung Forschung Nr. 48/2011 28.November 2011

●新規大学入学者数が初めて50万人を超える (28 Nov 2011)

新規大学入学者数が過去最高の51万5,800人に達し(前年同期比16%増)、大学在籍者数は240万人となり(前年同期比8%弱増)、大学進学ブームはあらゆる予測を上回った。

連邦政府と州政府は「大学協定」で、出生者数の多かった世代のために、彼らが大学入学を迎える2011年から2015年にかけて33万5,000人分の学籍枠を追加で用意するために、共同で財政支援することを合意していた。しかし、ドイツ大学長会議(HRK)のマルグレート・ヴィンターマンテル会長によれば、最近のHRKの試算では、この数字はすでに2013年には15万人弱分超過してしまい、よって大学は緊急に追加の資金が必要であるという。

連邦教育研究省(BMBF)のアネット・シャヴァーン大臣は、新規大学入学者数の増加は、専門職業人不足解消の観点からも良い兆候だと語った。連邦政府は2011年から2015年の4年間だけでも学籍枠を増加させるために、50億ユーロ弱の資金を拠出し、州政府を支援する。それ以外にも連邦政府は、「大学教育の質改善に関する協定」のために2020年まで最高で20億ユーロ資金を拠出し、それによ

て学生の修学環境改善をめざす。シャヴァーン大臣は州政府に対して、大学協定に投入された資金が全て学生のために使われるよう配慮することを要請した。講義室、学生が支払い可能な住宅など、深刻に不足しているものがあるが、そのようなところにもっと資金を投入すべきだという。

それに対し、野党の政治家や労働組合は、今すぐにも「大学協定」のための予算のさらなる増額を州政府と交渉するよう、シャヴァーン大臣に要請した。

ドイツ労働総同盟(DGB)の見解によると、大学の状況は非常に深刻化している。「そのことは何度も明らかになっている。州政府だけでは、大学に十分な資金を調達することができなくなっている」とDGBのイングリット・ゼルブロック副会長はベルリンで説明した。同氏は、「それゆえ我々は連邦制度改革の最悪の欠陥を訂正しなければならない。それに加えて連邦政府はそろそろ公立大学に長期的に公的資金を調達できるような法律的権限を持つべきだ」と言う。

教育学術労働組合(GEW)は、大学でもっと多くの教員が採用されるよう力を入れている。「新規入学者数は過去最高となったが、大学教授ポストの数は横ばいを続けている」とGEWのアンドレアス・ケラー役員はフランクフルトで述べた。240万人の学生に対して、大学教員はたった4万1,000人しかいない。つまり、1人の大学教員が学生59人を指導していることになる。「ドイツ学術審議会できえ、教員1人につき学生が40人という比率を奨励している」とケラー氏は語っている。

dpa-Dossier Bildung Forschung Nr. 48/2011 28.November 2011

(関連記事)

JSPS ボン研究連絡センター 「ドイツ学術情報(2010年10月~12月)」 p2~p4

http://www.jsps-bonn.de/fileadmin/bonbon_dokei/BonBonDokei30gaku.pdf

②バチェラー課程修了者の就職について

ドイツでは、ボローニャプロセスの進展により、ディプロームやマギスターといったドイツの伝統的な修士相当の学位をバチェラーとマスターに組み替える動きが進んでいるが、バチェラー課程のみの修了者が就職に対応できるのかについて、かねてから議論となっている。これに関して、2つの記事を紹介する(いずれの記事も全文和訳ではなく、当センターにて要約したものである)。

●大学卒業生は順調に職業生活を開始する(26 Oct 2011)

ディプローム(Diplom)やマギスター(Magister)、国家試験(Staatsexamen:医学、法学、薬学、教職などの課程は、国家試験合格をもって課程を修了する)といった伝統的な教育課程を修了した者の大学卒業1年後の失業率は、専門大学卒業生も大学卒業生も4%である。バチェラー課程修了者においては、専門大学で3%、大学で2%とさらに低い失業率である。これらは、大学情報システム大学研究所(HIS-HF)による最近の大卒者調査によって示された。

この調査の結果は、大卒者の多くが就職に成功し、自身の資格水準以下の職業で働く者の割合も少ないということを裏付けている。

77%の大学でのバチェラー課程修了者と、53%の専門大学でのバチェラー課程修了者は、卒業1年後、引き続き大学で勉強している。バチェラーの学位が職業上将来の見込みがないものと疑って進学する者は比較的少なく、個人的な動機付けによりマスター課程で学修を続けている者が多い。マスター課程での学修を継続していない者も、職業上おおむね良いスタートを切っている。

多くの専攻において、新旧の課程修了による差異は比較的小さい。例えば、経済専攻のバチェラー課程修了者の初年度の年収は3万3,000ユーロで、ディプローム課程修了者は3万7,500ユーロである。しかし、特に人文科学専攻のバチェラー課程修了者は、就職における問題を抱えている。卒業1年後に4人に1人の割合で、自身の資格水準以下の職業に従事している。

BMBF HP (<http://www.bmbf.de/press/3168.php>)

●ほとんどのバチェラー課程修了者はマスター課程進学を目指す(31 Oct 2011)

ドイツのほとんどのバチェラー課程修了者は、大学情報システム大学研究所(HIS-HF)の調査によれば、マスター課程でも学ぶことを希望している。バチェラー課程を修了後1年以内に、大学では72%、専門大学では50%がマスター課程での就学を開始している。これは、2009年に1万人の卒業生を対象として実施された、HISによるアンケート調査で示された結果である。

失業しているのは大学教育を受けた者の内たったの4%であると、大学情報システムと連邦教育研究大臣は2011年10月26日の共同記者会見で報告した。卒業試験終了後1年以上経った段階で、失業率が一番低いのはバチェラー取得の大卒者である。「大卒者の就職の見込みはよい。専門職業人不足のため、就職状況は今後さらに良くなるだろう」と連邦教育研究省のアネッテ・シャヴァーン大臣は強調した。

これで6回目になる大卒者アンケートは、1989年以降、HISが連邦教育研究省の助成を受けて4年ごとに実施されているが、今回初めて伝統的な履修課程と新しい履修課程の大卒者の就職する際、及び、就職後の状況を比較することができる調査書には書かれている。アンケートされた大卒者の内5,600人は、ディプロームやマグスターを取得、又は国家試験に合格した大卒者で、今のところまだその数の方が多い。しかし、バチェラー修了者の数も4,500人と、差が縮まってきている。また、新しい履修課程への移行は大学よりも専門大学のほうが進んでいる。

バチェラーとは、新しく3段階(バチェラー、マスター、ドクター)に分けられた学位制度において、最初に取得することができ、それをもって就職することができる大学卒業資格である。それにもかかわらず大学卒業生の85%、専門大学卒業生の66%がさらに大学で勉強を続けたいと思っており、そのほとんどが修士課程への進学を希望している。

バチェラーの卒業試験終了後1年以内にマスター課程に進んだものは、多少の例外はあるが、ほとんどが志望大学の志望学科に進学できている。「それによると、2009年度のバチェラー修了者にとって、マスター課程の学生定員がどこでもいっぱい入れないというような指摘はない」と、『変革期の大学卒業資格—2009年度における、改革された履修課程又は伝統的な履修課程を修了した大卒者の修学と移行』と題する研究論文には書かれている。

バチェラー修了者の中で進学を希望するものが非常に多い理由のひとつとして、調査では「一般的に見てマスター取得後のほうが、多様な就職可能性がある」ことが挙げられている。例えば、公務員職ではバチェラー以上の資格、例えば上級公務員への試補見習いや博士号などの資格の有無が就職に大きく左右すると別の箇所には記載されている。また、バチェラーの資格をもって上級公務員への試補見習いになることはできないとも書かれている。

企業における就職探しにおいても、バチェラー修了者の応募者のほうが、ディプロームやマギスター修了者よりも、別の卒業資格が求められていることを体験することが多い。別の卒業資格が求められる割合は、バチェラー修了者 36%に対し、ディプローム、マギスター修了者 4%であると報告されている。特に、専門大学ではなく大学卒業生にそれがあてはまる。

バチェラー修了者がマスター課程に進学しないことを決心する主な理由は、早くお金を得たい、やりたい仕事ははっきりしている、バチェラーの資格で良い就職先が見つけれられると思っているからなどである、と調査は結論づけている。

バチェラー資格での新規就職者は、例えば伝統的な学位であるディプロームを取得した大卒者といった、就職する際の競争相手よりも給料が低いという。フルタイム労働者の初任給は、専門大学の伝統的な卒業資格取得者の場合、税込みで3万6,450ユーロであるが、バチェラーは3万2,700ユーロで、10パーセント低い。大学の卒業生ではその差は26%にもなる。バチェラーは2万7,100ユーロ、それに対して伝統的な卒業資格取得者は、3万6,750ユーロとなっている。

ディプロームやマギスターの学位を取得、又は国家試験に合格した、伝統的な課程での大卒者と、バチェラー取得の大卒者における違いは、大学での勉強を開始する時点でもう一度選択できるとしたら、どの種類の卒業資格を選択するかという点にも現われている。前者の80%は再度同じ卒業資格の取得を目指すつもりだというが、それに対してバチェラー修了者では60%のみが再度バチェラー課程を選択するだろうということである。全体的に見て履修課程の選択の際に、労働市場の見方を重要視する傾向がこれまでの調査対象年次よりも大きくなっていると、HISの研究者は書いている。

2005年の大卒者と比べると、直近のアンケート対象となった大卒者において少なくとも次の2点で状況が良くなっている。税込み年収はフルタイム勤務労働者の場合、過去4年間でかなり上昇した。また、2009年度の大卒者は、自分たちの職業的な将来見通しを、これまでアンケート対象となった他の年度の大卒者の中ではこれまで見られなかったほど肯定的に見ている。(※ドイツの経済状況が全体的に良くなっていることが大きく影響しているものと判断される。)

dpa-Dossier Bildung Forschung Nr. 44/2011 31.Oktober 2011

③オンライン投票によるDFGの専門審査委員選挙が実施される

2012年から2015年までを任期とするドイツ研究振興協会(DFG)の専門審査委員を選出するため、ドイツ国内の約10万人の研究者に対して投票が呼びかけられた。DFGが支援する48の全研究領域をカバーする専門審査委員には606人を選出しなければならないが、その候補として1,383名(内287名

が女性)が挙がっている。選挙期間は2011年11月7日14:00から12月5日14:00までの4週間である。この選挙はオンラインで行われ、DFGによるとこれは世界最大規模のオンライン選挙である。

「専門審査委員はまさしくドイツ学術界の自治のシンボルである。民主的に認められた研究者たちが、研究プロジェクトの支援の決定において名誉職として中心的な役割を果たす」と、選挙開始にあたってDFGのマティアス・クライナー会長は強調し、選挙権を持つすべての研究者に対して権利を行使するよう呼びかけた。

DFGへの研究費申請の内60%を占める個々の研究者による申請においては、申請書は第一段階として2名の研究者により審査される。その審査結果は、第二段階として選挙により選ばれた専門審査委員により評価され、このプロセスにより審査結果の質が保証されている。第一段階の審査員はDFG事務局により選出されるが、専門審査委員はこの選出のチェックも行う。

「審査及び決定の過程において、専門審査委員はこのように審査基準の平準化や十分な透明性の確保に配慮している」とクライナー会長は要約する。専門審査委員はさらに、DFGの審議会に対して研究支援への戦略的質問に関する助言をしたり、支援システムの刷新に対して刺激を与えたり、若手研究者への支援に特に力を注いでいる。

今回始まった専門審査委員の選挙は、2003年にこの制度が導入されてから2回目である。選挙権を持つのは、DFGの会員となっている大学等機関で学術研究をしている全ての教授などである。

DFGによると、2011年12月5日14:00に選挙は成功裏に終了した。今回の選挙では42,896人が「学術のための6票」(ひとりが6票を投じることができる)を投票した。2007年に行われた前回の選挙で投票したのは36,313人で、「前回に比べて20%も多くの方が選挙に参加し、大きな成功である」とDFGのマティアス・クライナー会長はこの暫定選挙結果に対してコメントしている。

選出された専門審査委員の得票数を含む暫定選挙結果については、www.dfg.de/fk-wahl2011 に掲載されている(ドイツ語)。

(参考資料)

DFG HP

http://www.dfg.de/service/presse/pressemitteilungen/2011/pressemitteilung_nr_57/index.html

http://www.dfg.de/foerderung/info_wissenschaft/archiv/2011/info_wissenschaft_11_61/index.html

http://www.dfg.de/service/presse/pressemitteilungen/2011/pressemitteilung_nr_61/index.html

2 その他のニュース

①ヴァイマル大学が「国際的な大学」賞を受賞(8. Nov 2011)

ドイツ学術財団連盟とドイツ学術交流会(DAAD)が、2011年度の「国際的な大学」賞の授与を行った。この賞は毎年、大学の国際化の観点に重点が置かれているが、今回は「教育分野での国際化の規模」というモットーの下に、教育分野での国際化を強化するための協定校との協力や学生のモビリティを高めることがテーマとなっていた。

28件の応募があり、ブレーメン専門大学、ブランデンブルク工科大学コットブス、ゲッティンゲン大学、ザールラント大学、ヴァイマル大学の5大学が最終審査に残っていた。11月7日にベルリンで、5大学による公開プレゼンテーションが行われ、審査の結果、ヴァイマル大学(Bauhaus Universität Weimar)が受賞した。「国際的な大学」賞の賞金は5万ユーロである。

ヴァイマル大学では、60%のドイツ人学生が外国に行き、15%の学生と9%の教員が外国出身者である。

DAAD HP (<http://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2011/18914.de.html>)

②「バチェラープラス」で留学をより容易に(8 Dec 2011)

ドイツ学術交流会(DAAD)は2009年から、1年間の留学を含み、追加の資格を取得して卒業するのを可能にする4年間のバチェラー課程を「バチェラープラス」プログラムにより支援している(通常のバチェラー課程は概ね6セメスター(3年間)であるが、就職に有利となるよう、卒業時にバチェラーの学位という資格に追加して外国への留学を通しての資格を与えるというもの)。これに関する会議が2011年12月15、16日にボンで開かれる。

DAADによる支援プログラム「バチェラープラス」とこの会議は、連邦教育研究省(BMBF)からの「ボローニャは流動性を高める」という予算により財政支援されている。このプログラムによりDAADはドイツの大学に対し、1大学当たり8万ユーロを上限に支援しており、1年当たり約330万ユーロの予算を用意している。

DAAD HP

(<http://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2011/19227.de.html>)

③11名の傑出した研究者がライプニッツ賞を受賞(8 Dec 2011)

ドイツで最も重要な研究賞の受賞者が決定した。ドイツ研究振興協会(DFG)の評議会は、11名の研究者(内男性9名、女性2名)に対して2012年ゴットフリート・ヴィルヘルム・ライプニッツ賞を授与することを決定した。11名は、先立って開催された受賞者指名委員会にて131名の候補者の中から選出されていた。受賞者に対しては1人当たり250万ユーロの賞金が授与されるが、11名の内2名は共同受賞であり、この2人には125万ユーロずつが授与される。

受賞者は次のとおりであり、授賞式は2012年2月27日にベルリンで行われる。

- Michael Brecht(ベルンシュタイン計算論的神経科学センター/フンボルト大学)
- Rainer Forst(フランクフルト大学)
- Gunther Hartmann 及び Christian Kurts(いずれもボン大学病院、共同受賞)
- Matthias Mann(マックスプランク生物化学研究所)

- Friederike Pannewick (マールブルク大学)
- Nikolaus Rajewsky (マックスデルブリュック分子医学センター)
- Ulf Riebesell (キール大学ライプニッツ海洋学研究所)
- Peter Sanders (カールスルーエ工科大学)
- Barbara Wohlmuth (ミュンヘン工科大学)
- Jörg Wrachtrup (シュトゥットガルト大学)

DFG HP

(http://www.dfg.de/service/presse/pressemitteilungen/2011/pressemitteilung_nr_62/index.html)

④「大学教育の質改善に関する協定」第2期(13 Dec 2011)

計102の大学、専門大学、美術・音楽大学に、修学条件や教育の質の向上のために2016年までに約4億ユーロの連邦政府助成金が支給されることになった。「大学教育の質改善に関する協定」第2期の公募に対し、単独申請、共同申請合わせて169の大学から135件の申請があり、この中から102件が採択された。これまで支援されている大学と合わせて、16の全ての連邦州に所在する186の大学がこのプログラムにより支援されていることになる。第1期の申請に対しては、連邦政府は2016年までに10億ユーロ弱の予算を用意していた。

中間評価で肯定的な評価を受けると、2017年から最長でプログラムが終了する2020年まで継続支援される。連邦政府は「大学教育の質改善に関する協定」に対して、2020年までに20億ユーロを用意している。

連邦教育研究省(BMBF)のシャヴァーン大臣は、「私たちは、増加する学生に対して良い修学条件を提供し、学生が成功裏に修了できるように支援したいと考えている。特に重点を置いているのは、その後の修学がうまく行くために重要な、新入生に対して最初のセメスターに援助やオリエンテーションを提供するプロジェクトである」と述べている。

BMBF HP (<http://www.bmbf.de/press/3196.php>)

⑤数字で振り返る2011年(27 Dec 2011)

過去最高の51万5,800人を上回る若者が大学に入学した。

公立大学の77%に当たる186の大学が、BMBFのプログラム「大学教育の質改善に関する協定」に採択され、修学条件や教育の質の向上のため、2020年まで財政支援される。

6つの健康研究センターが、主要な国民病(糖尿病、感染症、がん、神経変性疾患、心臓・循環器系疾患、肺疾患)を克服するために、最良の研究条件の下に新しく設立された。大学や大学外研究機関の第一線の研究者120人が、39の研究拠点にて共同研究を行う。



連邦政府は第6次エネルギー研究プログラムのために、2011年から2014年にかけて約34億ユーロを用意した。予算は、ドイツのエネルギー供給の転換を加速させるのに重要である分野に集中投下される。

388ある大学の内、約300の大学が「ドイツ奨学金」(Deutschlandstipendium)の利用を始めている。2011年に導入されたこの奨学金は、経済状況に拘わらず、特に才能があり、成績が良く、積極的な学生に月額300ユーロが支給される。ドイツ奨学金は、連邦政府と民間のスポンサーによって半額ずつ負担される。

連邦教育促進法(BAföG)に基づく奨学金が40周年を迎えた。何百万もの若者(その内400万人は大学生)が、BAföGの支援により良い教育を受けた。2010年には、約32万4,000人の生徒と59万3,000人弱の大学生が支援を受けた。この人数は、ドイツ再統一後で最高である。

BMBF HP (<http://www.bmbf.de/press/3201.php>)

ぼんぼん時計第34号
日本学術振興会ボン研究連絡センター
JSPS Bonn Office
Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)
Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)
Phone +49 (0) 228-375050 Fax +49 (0) 228-957777
www.jsps-bonn.de